

1 新開・瀬野川・海田市駅

海田村は、江戸時代を通じて海田市と呼ばれ広島藩の蔵入り地(直轄地)であった。寛文元年(1661)の大規模な



新開(干拓)により瀬野川の流路を変え、江戸時代は町の前面が瀬野川の河口であった。明治6年(1873)鴻治新田築堤時に現在の流路に変わった。明治27年(1894)に山陽本線、明治36年(1903)に呉線が開通。呉鎮守府への交通の要所となり、駅には急行が止まり貴賓室が設けられ、旅館や料亭も立ち並び駅前が多い賑わった。駅名は当時のままとなっている。

2 火の見やぐら・浜の通り

大正時代から昭和40年代まで、浜の通りには町ごとに火の見やぐらが並んでいた。昭和10年までは船越へ流れる水路があった。アジアで初めての金メダリスト・織田幹雄さんは、稲荷町の生まれ、三段跳び15m21cm。



3 明顕寺

天文10年(1541)開基・浄土真宗第2次長州戦争で戦死した高田藩士の墓や芸州



鑄物師筆頭総代の名工 植木(金屋)源兵衛製作の梵鐘がある。

4 三宅家住宅

江戸時代から明治にかけての大農家。屋号は新宅屋、母屋は寛政元年(1789)の建築。土蔵などが残され江戸時代の面影が残されている。



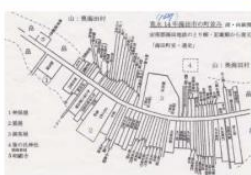
5 千葉家

建物は江戸時代中期の建築様式を伝えており座敷棟は安永3年(1774)の建築。寛政元年(1789)の建築略図が残されている。屋号は神保屋、江戸時代を通じて「天下送り役」「宿送り役」、町年寄り役など役職を勤めた。御茶屋や脇本陣の代わりに上級役人が休泊した。座敷棟は広島県の重要文化財、庭は名勝に指定されている。



6 脇本陣跡・加藤家

屋号は猫屋、広島猫屋町からやってきた。海田市の庄屋や宿駅業務の脇本陣役も勤めた。参勤交代では家老などが泊まり、一般の旅人も休泊した。明治になると安芸郡の郡役所が置かれた。



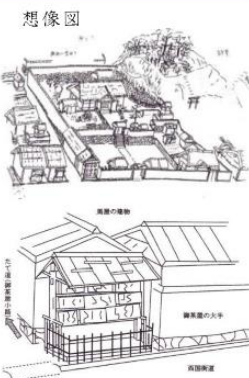
7 海田恵比須神社

海田市町が完成した頃の延宝3年(1675)、市町全体の発展・商売繁盛を願い町を中心に設置された。上市、中店、稲荷町、新町と昔ながらの町名が残る。



8 御茶屋跡

参勤交代の大名や幕府の役人が宿泊するために宿場町に設置された施設。広島藩が設置した海田市の施設は、御茶屋と呼ばれた。(玖波、廿日市は本陣と呼ばれた)宿駅業務の基地でもあり、伝馬役として海田では人馬15組や籠10挺などが置かれ、高札場も置かれていた。



9 熊野神社

海田市の氏神。承応3年(1654)、庄屋の猫屋次郎兵衛が願主となり建立。宝永元年(1704)社殿造営、文政8年(1825)拝殿再建。拝殿には、三十六歌仙の絵馬が掲げられている。



10 灘道・馬の背

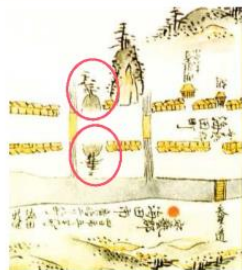
西国街道が整備される以前の東西を結ぶ生活道。道沿いに加藤岳楽(ふらく)や植木源兵衛の墓などがある。

■楠木地藏堂  
耳の病気に御利益が有ると云われている。寛政11年(1799)9月の墓碑名がある。  
■大師寺  
天保元年(1830)開基、高野山真言宗。広島新四国八十八ヶ所35番霊場。宮島の大願寺が一番霊場。  
■清正寺  
天明年間(1785頃)開基、日蓮宗。お百度詣りが体験できる。



11 一里塚跡

寛永10年(1633)西国街道が整備され海田村は宿場町になった。一里ごとに街道の両側に直径約6mの塚を設け2本ずつ松の木が植えられた。大正10年(1921)に撤去された。



12 向かい合わせの神社

■胡子神社【左】  
天保5年(1834)勧請。昭和初期に現在地に移設され新町地域をお守りしている。秋祭りには熊野神社から御輿が来る。  
■荒神社【右】  
文化11年(1814)勧請。明治6年(1873)、瀬野川の瀬替えに伴い移設され稲荷町地域をお守りしている。



ガイドのご案内

◆定時ガイド  
実施日時：毎月第4土曜日 13:00～  
(7月・8月 9:00～)

所要時間：2時間半程度  
集合場所：JR海田市駅北口  
申し込み：1週間前までに海田町企画課へ  
募集人数：20名(先着順)  
参加費：100円/1人

◆随時ガイド  
所要時間：2時間半程度  
集合場所：JR海田市駅北口  
申し込み：2週間前までに海田町企画課へ  
募集人数：5～20人のグループ  
参加費：100円/1人  
TEL:082-823-9212  
FAX:082-823-9203